

平成31年度(2019年度) 県立水戸南高等学校(定時制・夜間制) 自己評価表

No. 1

目指す学校像	校是「風雪に耐えてこそ、巨木の年輪ハ刻まれる。」 常に明るくのびのびと学習を続け、高い理想と強い向上意欲に燃える豊かな心情と丈夫な身体とを兼ね備えた、心身ともにたくましい人間を育成する。		
昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標	達成状況
<p>○基礎学力向上のための実力テストを実施したり、授業展開を工夫するなどして義務教育段階での学習内容の確実な定着・向上に努めた。しかし依然として学習意欲や基礎学力が不足している生徒が見られる。また学習の習慣が身に付いていない生徒も多い。</p> <p>○一人一人の状況に応じてきめ細かな進路指導を行った。しかし、勤労観や職業観が十分身につけていない生徒がいまだに多く、求人はあるが、進路希望が実現しにくい状況である。</p> <p>○各担任等が生徒ときめ細かなコミュニケーションをとることにより生徒理解が進んでいるが、依然として、怠学、基本的な生活習慣・規範意識や公共心に欠ける等、様々な問題を抱えている生徒が見られる。</p> <p>○クラスマッチや文化祭など種々の学校行事を工夫して実施しているが、望ましい人間関係を築く力や社会人として必要とされる態度を育成する特別活動を更に充実させる必要がある。</p>	<p>基礎的・基本的な知識・技能の習得と思考力、判断力、表現力等を育む個に応じた授業の工夫</p>	<ul style="list-style-type: none"> 授業の中で課題小テストを実施し、生徒一人一人の学習状況を把握するとともに、学習形態や指導方法を工夫し、きめ細かな学習指導を行う。 進路希望実現に向けて年3回の実力テスト【コンテスト形式】を実施し、社会で必要とされる一般常識・基礎学力等の確実な定着を図る。 学習意欲を高める指導の工夫し、個に応じた体験的・問題解決的な学習の促進を目指す。 	
	<p>職業観を育むキャリア教育の推進</p>	<ul style="list-style-type: none"> 教育活動全体を通じ、組織的・系統的なキャリア教育を更に充実させ、発達段階に合わせて望ましい勤労観・職業観を育成する。 進路実現に向けて主体的に考え取り組む態度を養うため、進路に関する情報提供に努める。 進路面談や個々の生徒へのサポートをより充実させ、きめ細かに一人一人のキャリア発達を支援する。 ジョブカフェやハローワーク等の外部機関との連携を一層強化する。 	
	<p>生徒指導及び道德教育の推進</p>	<ul style="list-style-type: none"> 外部機関やスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーなどと連携を密にし、教育相談体制を充実させ、様々な生徒に対して共感的理解に立って支援活動を行う。 教職員間の共通理解のもと組織的計画的な生徒指導を行い、基本的生活習慣を確立させる。また「道德」「道德プラス」を充実させ、道德的判断力などの育成を図る。 「いじめ防止基本方針」の改訂に基づき、未然防止や、実態把握を適切に行う。 	
	<p>特別活動の充実</p>	<ul style="list-style-type: none"> 生活体験発表会や晩秋祭に向けホームルーム活動や生徒会活動を活性化させ、望ましい人間関係を形成するとともに、自己肯定感・自己有用感を育む。 行事への主体的な取組により、協力して諸問題を解決しようとする実践的な態度を育て、いじめを排除する空気を持った生徒集団を構築する。 南高スピリットアッププログラムを効果的に活用するなど学校行事を充実させ、集団への帰属意識や連帯感を深め、公共の精神を養う。 定通体育大会や生活体験発表会等への参加を奨励し、活動者数の増加に努める。 	

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題
教科	国語	学習習慣を身に付けさせ、基礎学力の向上を図る。	<ul style="list-style-type: none"> 学習の目標を明確化させ、課題達成状況など折に触れて点検する。 様々な文章に触れさせ、読む楽しさを味わわせる。 	
		コミュニケーション能力の一つとして言語表現を身に付けさせる。	<ul style="list-style-type: none"> プリントや新聞等を利用して、思考力、判断力を身につけさせる。 個別指導を充実させ、主体的な学習態度の育成に努める。 	
	地理歴史	我が国及び世界の形成や生活文化の特色について、基礎知識を定着させ、現代の諸問題を様々な視点より考察する能力の育成を図る。	<ul style="list-style-type: none"> 地理的事象について、資料などを提示して興味関心を高め、グループ学習を通して理解を深める。 歴史的事象について、現代世界との関連性を考えさせる。 人々の生活を通じて、グローバル化する現代世界について理解を深めさせる。 記述問題を取り上げ、資料の読み取りや文章構成を通して思考力や表現力の育成を図る。 	

教	公民	現代社会のしくみと課題について理解し、よりよい社会づくりに自ら関わろうとする態度を養う。	<ul style="list-style-type: none"> ・視聴覚教材の活用により興味・関心を高め、学習意欲の向上に努める。 ・現代の経済と国民福祉について、身近な問題を取り上げることにより考えを深める。 ・法令遵守や人権尊重に関する事例について話し合うことにより、大切さを意識させる。 ・国際社会における日本の課題について、新聞記事等を活用して理解を深める。 		
		数学の必要性を理解させることで学習意欲を喚起し、基礎学力の定着ならびに向上を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・学習内容を精選し、わかる授業を心がける。 ・授業の中で基本的な計算の演習を行い、計算力の向上を図る。 ・一人一人の能力、意欲の違いを認め、自発的な態度を積極的に評価する。 		
		社会の中で技術として使われている理科内容を想起し、興味を持たせ、基礎学力の向上を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校での指導内容を確認しながら発問し、対話形式の指導を工夫する。 ・実験や観察を通して生徒の興味を喚起し、理解を深めるようにつとめる。 ・人間生活に関係する物質や現象等の説明では、関連する事象の映像を見せ、実物を用意して紹介する。 		
保健体育	基礎体力の向上を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の始めと終わりに整列し挨拶をする。授業開始前には必ず準備運動等を行い、筋力や柔軟性を高めるとともに怪我の防止に努める。 			
	健康的な生活習慣を身につけさせる。	<ul style="list-style-type: none"> ・生涯を見すえた健康のあり方について早い時期からの生活習慣が大切であることを学ばせる。 			
芸術	生涯にわたって芸術を愛好する心情を育てる。	<ul style="list-style-type: none"> ・芸術の幅広い活動に取り組みせ、表現する喜びや達成感を味わわせるとともに、表現に対する意欲を引き出す。 			
	芸術文化についての理解を深め、豊かな情操を養う。	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な優れた芸術作品に触れたり、芸術の諸能力を高めたりすることにより、感性を高め芸術に対する理解を深める。 			
外国語	基礎学力の向上を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・必修のコミュニケーション英語Ⅰの授業展開を工夫する。 ・限られた表現でも、自信を持って英語を話せるようにする。 			
	一人一人の学習能力に合わせた指導を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・発音、音読、聞き取りなどの時間をなるべく多く授業に取り入れ、生徒の口からたくさん英語を発話させる。 ・自らの考えを述べる発表演習を取り入れる。 			
科	家庭	積極的に授業に参加する態度を育てる。	<ul style="list-style-type: none"> ・授業課題の内容と実生活に生かせる知識と技術に関連させる指導の工夫を行う。 ・授業課題を有効に活用し、生活を総合的にマネジメントする能力を高める。 		
		レポート作成に対する指導を充実させる。	<ul style="list-style-type: none"> ・返却のレポートのコメントを工夫する。 ・課題レポート解答を自力で作成し、期日を守って提出することを促す。 		
		情報化する社会に積極的に参画できる能力・態度を育む。	<ul style="list-style-type: none"> ・実習を充実させ、情報活用実践力の確実な定着を図る。 		
情報	情報モラル、知的財産の保護、情報安全に対する実践的な態度を育てる。	<ul style="list-style-type: none"> ・情報ネットワーク上のルールやマナー、危険回避、人権侵害、著作権などの知的財産の保護などについての指導を充実させる。 			
	簿記能力を高める。	<ul style="list-style-type: none"> ・個別指導を中心に、演習とプリント学習を取り入れ、自ら考え解決する力を高める。 ・簿記の学習を通し、合理的な考え方や整理する能力を養う。 			
商業	経済活動にともなう法規や社会生活に関連の深い法規について学習する。	<ul style="list-style-type: none"> ・私たちの生活が法と関わりが深いことと法が必要なことを理解させる。 ・基礎的・基本的な事項について具体的な事象を取り上げ、理解を深めさせる。 ・様々な事例問題において、自ら考え判断する力を養う。 			

教 務	教育課程を検討する。	・生徒が学びやすく、より学習効果を高めるためのカリキュラム編成に努める。		
	シラバスと履修指導の充実に努める。	・生徒が活用しやすいシラバスの作成を工夫するとともに、履修指導を丁寧に行い、単位修得や卒業への意識を高める。		
	内規の見直しを継続する。	・生徒の個性を伸ばせるように、夜間制の現状を考慮しながら内規の検討を推進する。		
	支援システムを活用する。	・成績処理以外の各種統計等においても、支援システムを活用して作業の効率化を図る。		
学習指導	自ら考え、積極的に学ぼうとする態度を養う。	・授業への参加率の向上を図るため、集会等で授業や学習の重要性を説明する。 ・学習意欲を引き出せる指導方法や個に応じた体験的・問題解決的な学習の促進を目指す。		
	基礎学力の定着とともに、進路実現に向けた主体的な学びを援助し学力の向上を図る。	・授業のはじめや最後で授業内容の確認を実施し、生徒一人一人の学習状況を把握し個に応じた指導の実践をする。 ・学習形態や指導方法を工夫し、学習指導を充実させる。 ・進路希望実現を目標に年3回実力テストを実施する。また、生徒の取り組みを喚起するための工夫をする。		
	共感的理解を持って生徒理解を深め、教員と生徒との良い人間関係を築く。	・登下校時や始業前などに生徒へ声をかけるなど、日々の積み重ねを重視する。 ・「道徳」や「道徳プラス」、LHR等を通して生徒自身が自らを振り返ることの重要性を説明する。		
	基本的な生活習慣の確立や、規範意識などを育てる	・職員間で生徒の情報や問題を共有し、外部機関やスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーと連携をとることで、問題の未然防止を心がけ、迅速な対応に努める。		
生徒指導	学校行事を充実させ、集団への帰属意識を高め、公共の精神を養う。	・生徒会活動やHR活動を活発に行い、協力して問題を解決しようとする態度を育てる。		
	本校の「いじめ防止基本方針」に基づき、いじめの防止に努め、実態把握およびいじめに対する措置を適切に行う。	・生徒の自己有用感等を高め、生徒から相談しやすい関係を構築し未然防止に努める。 ・保護者から相談しやすい関係を構築するとともに、いじめの早期発見に努める。 ・いじめ発生の際には、被害者の心のケアや加害者への指導を適切に行い早期解消に努める。 ・保護者と密接に連絡を取るとともに、必要に応じて関係機関と連携して対応する。 ・情報モラルやいじめについての事例研究や校内研修などの教職員研修を適切に行う。		
保 健	基本的な生活習慣を基に健康の保持増進に努める。	・健康診断等の受診率を向上させ、その結果から自己の健康と生活習慣についての関心を高めさせる。		
	学習環境の整備に努める。	・学校薬剤師との連携により環境衛生検査を実施し、学習しやすい環境を整える。		
進路指導	進路意識の向上を図り、卒業後の進路を主体的に考えて自ら決定できるようにさせる。	・各種進路行事を定期的実施して、進路意識を高める。 ・進路だよりの発行や生徒の実態に合った進路情報の提供により進路学習を充実させる。 ・各教科・学習指導部と連携して基礎学力の向上を図る。 ・ジョブカフェやハローワークなどの外部機関との連携の強化に努める。		
	一人一人の生徒の状況や進路希望を把握し、個に応じた丁寧な指導に努める。	・進路アンケート・進路適性検査を実施する。 ・進路決定に活用できる効果的な進路資料を作成し生徒に理解させる。 ・個別面談の充実を図る。		
渉 外	家庭との連携を密にし、各種行事への保護者の参加率を高める。	・各種行事への案内方法を工夫し保護者の参加を促して、参加率の向上を図る。 ・会員相互の親睦を図るために、参加しやすい行事や研修旅行等を企画する。		

第1年次	生徒各々が自らの力で充実した学校生活を送れるようにする。	・基本的な生活習慣を身につけ、けじめのある学校生活が送れ、生徒同士がお互いに認めあえるような人間関係が築けるように努める。		
		・生徒との信頼関係を築き、安心して登校できる環境を整える。		
		・社会の一員としての自覚を促す。		
		・問題のある生徒に対して、職員間で情報を共有し、対処法を考える。		
		・家庭（保護者）との連絡を密にし、学校生活が円滑に送れるように協力を得る。		
第1年次	生徒の主体性を重んじ、自立への模索を援助する。	・清掃や授業の準備、後片付け等の役割分担通し、生活協同体としてのまとまりを自覚させ、他者尊重の態度を身につけさせる。		
		・「道徳」、クラスの係、生徒会活動、学校行事、生活体験発表会、アルバイト等を指導の機会をとらえ、主体的な生き方を考えさせる。		
第2年次	自立的・自発的な行動がとれるよう自覚を促す。進路に関する興味・関心を高める。	・基本的な生活習慣を自覚させ、あらゆる機会をとらえて、責任ある行動がとれるように細やかな指導をする。		
		・単位修得へ向けて、リズムある学校生活ができるように促し、授業へしっかりと取り組む態度が確立できるよう工夫する。		
		・進路指導部と連携し、生徒への情報提供を充実させ、進路意識を高める工夫をする。		
第3年次	進路希望の実現を図る。	・外部機関との連携を図り、進路ガイダンス、三者面談やLHRを活用して主体的に自己の進路を考えていけるよう支援する。		
	社会人として生きる自覚を持たせる。	・あらゆる場面を利用してコミュニケーション能力を養い、社会の一員として責任ある行動がとれる人間の形成を目指す。		

※評価基準： A：十分達成できている B：達成できている C：概ね達成できている D：不十分である E：できていない